

# 森のちやれんがニュース

## 2019 秋

Newsletter vol.17



### 第5回特別展

#### 『アイヌ語地名と北海道』を開催 (2019年7月6日~9月23日)

北海道の地名は、その多くがアイヌ語に由来します。このことは、アイヌ民族が北海道に先住してきたことの何よりの証です。

この特別展は、道内初公開の国宝伊能図をはじめ江戸時代の古地図・古文獻に記された地名や、アイヌ語地名研究の第一人者である山田秀三の調査記録、近現代における地名のあゆみなどをもとに、〈地名〉を通して北海道を見つめ直す展示会となりました。また、子どもたちにも地名の魅力を楽しんでもらう体験コーナーでは、家族で楽しむ様子も見受けられました。

そのほか、総合展示室のクローズアップ展示や、記念ホールでの国立アイヌ民族博物館のPR展示、そして開拓の村での建物に関する地名の紹介展示など、様々な場所で関連展示を行いました。(研究職員 鈴木明世)



単眼鏡を設置して、資料に記述された細かい文字までじっくり見ていただけるようにしました。



### CONTENTS

- ② 収蔵資料紹介  
アイヌ民族の「耳飾り(ニンカリ)」について
- ③ 展示イベント予告  
百聞は一見にしかず!  
企画テーマ展「エゾシカ」を開催します
- ④ 研究活動紹介  
高齢者と博物館の協働で  
地域学習コンテンツを開発します
- ⑥ はっけん広場 夏の活動報告  
初夏のイベント、大作戦の結果は?  
アイヌ民族文化研究センターだより  
2019年度の「アイヌ文化巡回展」を  
白老町と新ひだか町で開催しました
- ⑦ トピックス  
博物館にカパ・ハカが響いた春  
「Tuku lho 受け継がれるレガシー」が開催されました
- ⑧ 活動ダイアリー  
2019年6月~8月の記録

## 収蔵資料紹介

## アイヌ民族の「耳飾り(ニンカリ)」について

亀丸 由紀子

アイヌ民族文化研究センター 学芸員

今回紹介する収蔵資料は、アイヌ民族の「耳飾り」です。現在、北海道博物館では、約60点の「耳飾り」が収蔵資料として登録されています。これらの資料は、当館が1971年に旧北海道開拓記念館として開館してから今日までに収集されたものです。

アイヌ民族の装身具の一つである「耳飾り」は、アイヌ語でニンカリと呼ばれます。通常は、二つで一組になっていて、ピアスのように、耳たぶにあけた穴に通して身につけるものです。

アイヌ民族の装身具には、「耳飾り」の他にも、首飾りや玉飾り、冠や刀などがあります。クマ送りなどの儀式の際に男性が身につける冠や刀、同じく、儀式などの際に女性が身につける首飾りや玉飾りとは違って、「耳飾り」は男女ともに子どもの頃から身につける装身具です。明治時代に入り、開拓使によって男性の「耳飾り」の着用が禁止されるまでは、儀式の際などの特別な時だけではなく、日々の暮らしの中で男女や年齢に関係なく、身につけられていました。

聞き取り調査の記録や文献をあたってみると、「耳飾り」をつけるために

は、7～8歳までの間に耳たぶに穴をあけて、穴が完成するまで糸や紐、布を通しておいた、という記録が残されています。また、穴をあける時には、皮針や布団針のような、太めの針を使った、という記録もあります(『アイヌ民俗文化財調査報告書』北海道教育委員会, 1983, 1985, 1987, 1988, 『アイヌの民具』萱野茂, 1978)。

布を裂いたものや紐、または、ブドウづるを磨いたものなどを「耳飾り」としていた記録もありますが、現在、アイヌ民族の「耳飾り」として博物館等施設に収蔵されているものの多くは金属製で、当館収蔵である約60点の「耳飾り」も全て金属製です。

また、金属製の「耳飾り」とひとくくりに言っても、金、銀、銅や、錫、鉛、鉄など、様々な材質が使用されています。筆者が2016年に行った金属製「耳飾り」の材質分析調査の結果では、現在、博物館などに残されている「耳飾り」の多くは、銅・亜鉛・ニッケルの合金である洋銀、という材質を用いたものであることが、分かりました。その後の調査でも数多くの「耳飾り」を見せてもらいましたが、やはり、洋銀

を使った「耳飾り」が多いようです。

形は、平面状に見て、写真1にあるように円形を示す型式(I型)と、「?」形を示す型式(II型)の、大きく分けて2つの型式に分類され、当館の「耳飾り」はII型がやや多い傾向にあります。また、「耳飾り」の多くには、写真2～4のような金属製の飾り玉や、写真5～6のようなガラス玉を用いた飾りがついています。大きさは、輪の直径が7～8cm、重さは10～15gくらいのものが一般的ですが、当館収蔵資料には、写真1の収蔵番号：165936, 32820のように直径が10cmを超える大ぶりのものが数点存在するのが特徴です。

交易によってアイヌ文化にもたらされたときれている「耳飾り」。その形や素材、作り方をじっくり分析し検討していくことで、交易ルートの解明や新たな側面からのアイヌ文化を知る重要な手がかりとなるだろうと考えています。



写真1 (収蔵番号：左から165936, 32820, 上165942, 下165938)  
右下の165938を一般的な「耳飾り」とすると、左2つの大きさがわかる。



写真2 (収蔵番号：32820)



写真3 (収蔵番号：165939)



写真4 (収蔵番号：32977)



写真5 (収蔵番号：165942)



写真6 (収蔵番号：165936)